

(電子メール施行)  
農技1195号  
令和元年7月22日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和元年度病虫害発生予報第3号を發表します。

令和元年度病虫害発生予報 第3号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病	<b>やや多</b>	やや少
	紋枯病	平年並	やや少
	縮葉枯病	平年並 (一部やや多)	平年並
	ヒメトビウンカ	平年並	平年並
	ツマグロヨコバイ	平年並	平年並
	セジロウンカ	平年並	やや少
	トビイロウンカ	やや少	少
	斑点米カメムシ類	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
	イネツトムシ	やや少	やや少
	フタオビコヤガ	やや少	やや少
	コブノメイガ	やや少	少
ナシ	黒斑病	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
	黒星病	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
	シンクイムシ類	平年並	平年並
	ハマキムシ類	平年並	平年並
	ハダニ類	平年並	やや少
	カメムシ類	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
野菜共通	ハイマダラノメイガ	平年並	平年並
	ハスモンヨトウ	平年並	平年並
	シロイチモジヨトウ	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
果樹共通	果樹カメムシ類	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>

\* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(7月20日から8月19日までの天候見通し)

令和元年7月18日  
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

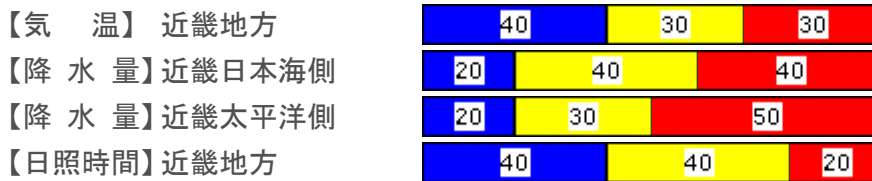
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間のはじめは、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。その後は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で多い確率50%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

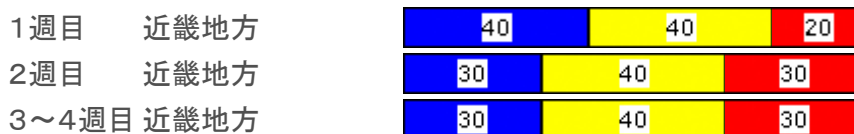
週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 7月20日(土)~ 8月19日(月)
- 1週目 : 7月20日(土)~ 7月26日(金)
- 2週目 : 7月27日(土)~ 8月2日(金)
- 3~4週目 : 8月3日(土)~ 8月16日(金)

## \* 発生概況及び防除対策上の留意点

### イネ

#### 1 【いもち病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多  
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察ほ場では発病を確認していないが、現地調査では発病ほ場率3.5%(昨年値4%)とわずかに発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、降水量は日本海側で平年並または多い、太平洋側で多い、日照時間は平年並または少ないと予想されている。播種時あるいは移植時に施用した薬剤の効果が低下してくることもあり、やや多い発生が予想される。

#### (3) 防除上の留意点

ア 収量に影響を与える穂いもちは葉いもち病斑が伝染源となる。特に止葉などの上位葉に病斑があると穂いもちが多発するので、初発確認から穂揃期までの防除を心がけること。葉に病斑を確認した場合は穂や節への移行を抑えるために予防的に薬剤散布をすること。本田での薬剤散布は、葉いもちでは初発確認後の早い時期で、穂いもちでは穂ばらみ期から穂揃期で、それぞれ効果が高い。

イ 農薬は薬液が十分かかるようにいねいに散布する。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

エ 6月上旬より梅雨明けまで、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ上でBLASTAMによる葉いもちの感染好適日の情報を提供しているので参照にすること。

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>

#### 2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並  
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察ほ場では発病を確認していないが、現地調査ではわずかに発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、平年並の発生が予想される。

#### 3 【縞葉枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並(一部地域でやや多)  
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察ほ場では発生を確認していないが、現地調査ではわずかに発生が確認されている。5月下旬～6月上旬にコムギの調査定点から採集したヒメトビウンカ第1世代虫の本病ウイルス保毒虫率は、平均1.6%と昨年(2.0%)に比べやや低かった。しかしながら、県西部で平均より高い傾向がみられ、5%以上

の高い値を示す地域もある。

イ イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカの発生は平年並と予想しており、発生は平年並であるが、保毒虫率の高い地域(県西部)ではやや多くなると予想される。

(3) その他

今年度の第1世代虫(コムギ採集個体)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については、兵庫県病害虫防除所ホームページ

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)を参照する。

#### 4 【ヒメトビウンカ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 本年は春季から本種の世代の進み具合がやや遅れている状態が見られており、予察ほ場における7月上旬のすくい取り調査(10回振り)では成虫1頭(平年値2.4頭)、幼虫1頭(平年値2.8頭)とやや少なかった。7月中旬以降、第2世代の中老令幼虫がみられはじめ、現地調査でも広い地域で発生が確認されるようになって、平年並の発生となっている。

イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、平年並の発生で推移すると予想される。

#### 5 【セジロウンカ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯では、6月以降7月2半旬までの誘殺数は、加西市0頭(前年値0頭)、南あわじ市1頭(同1頭)、朝来市2頭(同1頭)であった。また、7月上旬の予察ほ場(朝来市)及び現地調査では少ないものの、発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされている。本種は通常夏季に増殖する特性をもち、繁殖に好適なイネの生育ステージがしばらく続くことから、密度が高くなり、発生は平年並になると予想される。

#### 6 【トビイロウンカ】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 県下の3カ所に設置している予察灯への飛来および現地調査ではまだ発生が確認されていない。

イ セジロウンカと同時飛来している可能性があり、今後、発生するおそれがある。

#### 7 【ツマグロヨコバイ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下の3カ所に設置している予察灯では、6月以降7月2半旬までの誘殺数は、加西市1頭(前年値0頭)、南あわじ市27頭(同2頭)、朝来市5頭(同0頭)であった。

7月上旬の予察ほ場では成・幼虫数は2頭/10回振り(平年値1.1頭)及び3頭/10株  
払い落とし(同5.8頭)と平年並の発生が確認され、現地調査でも発生が確認され  
ている。

イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、平年並の発生で  
推移すると予想される。

## 8 【斑点米カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯では、6月以降誘殺が続いており、7月1半旬  
では、加西市で63頭(前年値54頭)であった。7月上旬の予察ほ場(朝来市、すく  
い取り調査 2頭/10回振り(平年値0.5頭))及び現地調査でも発生が確認されてい  
て、本田では例年よりやや早い時期から発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、斑点米カメムシ  
類の活動が高まり、発生はやや多い状況で推移すると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 出穂期までに生息場所であるほ場周辺(畦畔等)の除草を行い生息密度の低下を  
図ること。ただし出穂直前と出穂後の畦畔除草は水田へのカメムシ類の侵入を助  
長するので避けること。

イ 農薬散布は出穂期以降に実施すること。散布に当たってはカメムシ類の生息場  
所全体に届くよう散布すること。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)  
等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

## 9 【イネツトムシ】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察ほ場において発生は確認されていない。現地調査でも一部の地  
域でごくわずかな発生にとどまっている。

イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、ある程度の発生  
はあるが、やや少なく推移することが予想される。

## 10 【フタオビコヤガ】

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の予察ほ場において発生は確認されていない。現地調査でも一部の地  
域でごくわずかな発生にとどまっている。

イ 今後はイネの成長に伴い食害適期を過ぎるため、増殖が抑制されると考えられ  
る。

## 1 1 【コブノメイガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少  
(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯への飛来、および7月上旬の予察ほ場と現地調査での発生は確認されていない。

イ セジロウンカと同時飛来している可能性があり、今後、発生する恐れがある。

## ナシ

### 1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多  
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内調査及び現地調査では、短果枝の発病葉率7.8%（平年値5.6%）、発生ほ場率66.7%（平年値70.8%）、発育枝の発病葉率1.3%（平年値1.4%）、発生ほ場率66.7%（平年値33.4%）とやや多い傾向にある。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温はほぼ平年並、降水量は日本海側で平年並または多い、太平洋側で多いと予想されていることから、本病はやや多い発生で推移すると予想される。

#### (3) 防除上の留意点

ア 農薬散布時は、薬液が十分かかるように不要な徒長枝を切り落とすこと。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

### 2 【黒星病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多  
(2) 予報の根拠

ア 6月中旬の場内調査及び現地調査では、短果枝の発病葉率2.2%（平年値0.4%）、発生ほ場率50.0%（平年値4.2%）、7月上旬の調査では、同じく発病葉率0.6%（平年値0.2%）、発生ほ場率16.7%（平年値8.3%）とやや多い発生が継続している。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温はほぼ平年並、降水量は日本海側で平年並または多い、太平洋側で多いと予想されていることから、本病はやや多い発生で推移すると予想される。

#### (3) 防除上の留意点

ア 農薬散布時は、徒長枝への散布を徹底すること。

イ 本病は、赤ナシ系品種に発生が多いので、特に無袋栽培では防除を確実に実施すること。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

### 3 【シンクイムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**  
(2) 予報の根拠

ア 6月以降7月2半旬までのフェロモントラップ(ナシヒメシンクイ)では、6月下旬から7月上旬に誘殺のピークがみられ、加西市では0.5頭(過去3年平均7.0頭)、朝来市では5.1頭(前年値0.6頭)であり、同時期の場内調査及び現地調査では発生は確認されておらず、発生に地域差は見られたが、平年並の発生であった。  
イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、平年並の発生で推移すると予想される。

### 4 【ハマキムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**  
(2) 予報の根拠

ア 加西市のフェロモントラップでは6月以降7月2半旬までに少数の誘殺があり、平年並の発生が確認されている。  
イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、平年並の発生で推移することが予想される。

### 5 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**  
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内調査及び現地調査では、寄生葉率2.5%(平年値21.7%)、発生ほ場率33.3%(平年値56.7%)と、やや少ない発生であった。  
イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされている。例年ハダニ類に好適な季節であることから、平年並の発生になることが予想される。

### 6 【カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**  
(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は裏年(発生が少ない年)に該当するが、6月以降7月2半旬までのフェロモントラップでは、6月下旬から7月上旬に誘殺のピークがみられ、加西市のピークは34.5頭で表年(発生の多い年)とほぼ同等となっている。一方、朝来市のピークは319.1頭で6月以前の362.9頭(5月5半旬)より減少しているが、表年(3カ年平均51.3頭)を大幅に上回っていて、多発傾向が続いている。  
イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、やや多い発生で推移することが予想される。

- (3) 防除上の留意点

ア 今後第1世代虫の発生もあることから、有袋栽培の収穫直前の袋を外す時期の被害に注意すること。また、有袋の状態でも、果実が肥大して果実袋に密着すると、袋の上から吸汁されることがあるので注意する。

イ 飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

## 野菜共通

### 1 【ハイマダラノメイガ】（アブラナ科野菜）

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 誘致植物のクレオメでの調査では、7月1半旬の寄生シュート(花枝)率が5%（過去5年平均値0.4%）、同月3半旬は1%（過去5年平均値1.4%）とほぼ平年並の発生が確認された。

イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされている。本種は例年8月以降密度増加が見られており、今後、被害に対する注意が必要である。

### 2 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置されたフェロモントラップでは6月中下旬から誘殺が認められており、7月2半旬では加西市で44頭(平年値29頭)、朝来市で13.6頭(前年値7.1頭)である。本年は誘殺が例年より早く、作付の早いピーマンのみで幼虫の発生が認められている。

イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、8月以降も平年並の発生で推移することが予想される。

### 3 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 加西市におけるフェロモントラップでは6月1か月間の成虫誘殺数は合計46頭（平年値14頭）であった。南あわじ市のネギほ場では幼虫の発生が確認されており、やや多い発生で推移している。

イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、やや多い発生が予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 秋野菜の播種・定植により、今後加害対象作目の被害拡大に注意が必要である。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意すること。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連



用は避ける。

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

## 果樹共通

### 1 【果樹カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量： **やや多**

(2) 予報の根拠

ア ナシを含めた果樹を加害するカメムシ類については本年6月12日付けで病害虫発生予察注意報第1号を発表したところである。チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は裏年（発生の少ない年）に該当するが、6月以降7月2半旬までのフェロモントラップでは、6月下旬から7月上旬に誘殺のピークがみられ、加西市のピークは34.5頭で表年（発生の多い年）とほぼ同等となっている。一方、朝来市のピークは319.1頭で6月以前の362.9頭(5月5半旬)より減少しているが、表年(3カ年平均51.3頭)を大幅に上回っていて、多発傾向が続いている。

イ 今後の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、やや多い発生で推移することが予想される。気温の上昇に伴いカメムシ類の活動がさかんとするため、果実への加害が懸念される。加害対象は前述のナシの他、カキ、ブドウ等が考えられる。

ウ 果樹カメムシ類の詳細については、前述の令和元年度病害虫発生予察注意報第1号（HPに掲載）および令和元年度病害虫発生予察防除情報第3号(近日発表予定)を参考にすること。

(3) 防除上の留意点

ア 飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

\* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)